

| 評価対象年度  |  | 平成20年度  | 事業分析シート                          |  |   | 政策             | 8                | 施策               | 19    | 事業 | 1 |
|---------|--|---|----------------------------------|--|---|----------------|------------------|------------------|-------|----|---|
| 事業名     |  | 宮城県ドクターバンク事業  |                                  |  |   | 担当部局・課室名       | 保健福祉部<br>医療整備課   |                  |       |    |   |
| 事業の状況   | 実施番号・施策名   | 19 安心できる地域医療の充実   |                                  | 区分<br>(新規・継続)  | 継続  | 区分<br>(重点・非予算) | 重点事業             |                  |       |    |   |
|         | 概要   | ・全国から県内自治体病院への勤務を希望する医師を募集・採用し、派遣等を行う。  |                                  | 対象<br>(何に対して)  | 年度  | 平成19年度<br>決算   | 平成20年度<br>決算(見込) | 平成21年度<br>決算(見込) |       |    |   |
|         | 手段<br>(何を<br>したのか)   | 活動指標<br>名(単位)<br>手段に対応<br>1事業につき<br>1指標   | 目的<br>(対象をどの<br>ような状態に<br>したいのか) | 成果指標<br>名(単位)<br>目的に対応<br>1事業につき<br>1指標  | ドクターバンク事業の採用医師数(平成17~21年度まで各5人確保する。)4月1日採用者は、前年度実績に計上。(人)   | 指標測定年度         | 平成 年度            | 平成 年度            | 平成 年度 |    |   |
|         |  |   |                                  |  |   | 目標値            | -                | -                | -     |    |   |
|         |  |   |                                  |  |   | 実績値            | -                | -                | -     |    |   |
|         | 事業に関する社会経済情勢等  | ・医師の絶対数の不足、地域や診療科による偏りが強まる中、医学部定員増や臨床研修制度の見直しなど国の対策も強化されつつあるが、本県では自治体病院の深刻な医師不足が続いており、医師確保は喫緊の重要課題となっている。<br>・平成18年12月31日現在、人口10万対医師数の全国平均は217.5人、本県は208.7人であり、地域別に見ると、仙台医療圏以外は全国平均を大きく下回る状況。県内自治体病院等から県への医師求人登録数は、平成21年1月5日現在で96人。 |                                  | 評価対象年度   | 平成19年度  | 平成20年度         | 平成21年度           |                  |       |    |   |
| 指標測定年度  |  | 平成19年度  | 平成20年度                           | 平成21年度   |   |                |                  |                  |       |    |   |
| 目標値     | 5  | 5   | 5                                |  |   |                |                  |                  |       |    |   |
| 実績値     | 3  | 3   | -                                |  |   |                |                  |                  |       |    |   |
| 事業の分析   | 項目   |   | 分析                               | 分析の理由  |   |                |                  |                  |       |    |   |
|         | 必要性  |   | 妥当                               | ・本県の自治体病院等が直面している深刻な医師不足に対処するため、即効性のある医師確保支援策を県が独自に推進する必要がある。<br>・県職員として採用されること、有給研修の受講機会の保障があること、キャリア形成への配慮があること(例:認定医や専門医を目指したいとの希望があれば、資格を取得しやすい病院に派遣)などが本事業の特長であり、個々の市町村等が県と同じように事業を実施するのは難しい。 |   |                |                  |                  |       |    |   |
|         | 有効性  |   |                                  | 成果があった   | ・全国的な医師不足の状況下、成果指標の目標値(採用医師数5人)は達成できなかったが、3人を確保できた。<br>・平成17年度の事業開始以来、合計12人、年度平均では3人を確保できており、同種の事業を実施する都道府県の中で上位の成果が上がっている。                       |                |                  |                  |       |    |   |
|         | 効率性  |   | 効率的                              |  | ・前年度決算額に比べ事業費が大幅に増加した主な理由は、採用した医師の経歴等を勘案し、自治体病院への派遣前に大学病院での6か月研修を受講させたことに伴う人件費増。本事業の制度設計として、臨床経験の少ない医師を採用する場合には、派遣前研修を行うこととしており、実施要項等にもその旨を示している。 |                |                  |                  |       |    |   |
| 事業の方向性等 | 事業の次年度の方向性   |   |                                  | 方向性  | 方向性の理由・説明   |                |                  |                  |       |    |   |
|         | 事業を進める上での課題等   |   | 維持                               | ・自治体病院等医師確保支援事業の柱となる事業であり、地域医療の充実に係る県民満足度の向上に向け、引き続き重点的に展開すべき事業である。  |   |                |                  |                  |       |    |   |
|         | 次年度の対応方針   |   |                                  | 課題等への対応方針  |   |                |                  |                  |       |    |   |
|         | ・事業費削減に向けPR活動の絞り込みを検討した結果、医学情報誌への広告掲載を止め、本事業の特徴を医師に直接伝えることができる学術会議の開催場所での出張PRを中心に実施する。 |   |                                  |  |   |                |                  |                  |       |    |   |

| 評価対象年度        |   | 平成20年度   | 事業分析シート          |   |        | 政策       | 8              | 施策               | 19               | 事業 | 2  |
|---------------|---|--|------------------|---|--------|----------|----------------|------------------|------------------|----|----|
| 事業名           |   |  | 医学生修学資金等貸付事業     |   |        | 担当部局・課室名 |                | 保健福祉部<br>医療整備課   |                  |    |    |
| 事業の状況         | 施策番号・施策名  | 19 安心できる地域医療の充実  |                  | 区分<br>(新規・継続)   | 継続     |          | 区分<br>(重点・非予算) | 重点事業             |                  |    |    |
|               | 概要  | ・県内の自治体病院で勤務する意志を有する大学生、大学院生及び研修医を対象に修学資金等を貸し付ける。  |                  | 対象<br>(何に対して)   | 年度     |          | 平成19年度<br>決算   | 平成20年度<br>決算(見込) | 平成21年度<br>決算(見込) |    |    |
|               | 手段<br>(何を<br>したのか)  | ・募集活動(ポスター・パンフの作成及び全国の医科系大学等への配布,県内高等学校への訪問PRなど)<br>・応募者等対応から貸付決定までの事務,貸付け・債権管理・貸付修了者の配置決定等                                    | 活動指標名(単位)        | -   | 指標測定年度 | 平成       | 年度             | 平成               | 年度               | 平成 | 年度 |
|               |   |  | 目標値              |   | -      | -        | -              | -                |                  |    |    |
|               |   |  | 実績値              |   | -      | -        | -              | -                |                  |    |    |
|               |   |  | 単位当たり<br>事業費(千円) |   | -      | -        | -              | -                |                  |    |    |
|               | 目的<br>(対象をどの<br>ような状態に<br>したいのか)  | ・医学生からの問合せ・応募を増やし,貸付けの実績を確保する。   | 成果指標名(単位)        | 修学資金等の新規貸付決定数(平成17~21年度まで各10人に貸し付ける。)<br>(人)  | 評価対象年度 | 平成19年度   | 平成20年度         | 平成21年度           |                  |    |    |
| 指標測定年度        |   |  | 平成19年度           |   | 平成20年度 | 平成21年度   |                |                  |                  |    |    |
| 目標値           |   |  | 10               |   | 10     | 10       |                |                  |                  |    |    |
| 実績値           |   |  | 11               |   | 11     | -        |                |                  |                  |    |    |
| 事業に関する社会経済情勢等 | ・医師の絶対数の不足,地域や診療科による偏在が強まる中,医学部定員増や臨床研修制度の見直しなど国の対策も強化されつつあるが,本県では自治体病院の深刻な医師不足が続いており,医師確保は喫緊の重要課題となっている。<br>・平成18年12月31日現在,人口10万対医師数の全国平均は217.5人,本県は208.7人であり,地域的に見ると,仙台医療圏以外は全国平均を大きく下回る状況。県内自治体病院等から県への医師求人登録数は,平成21年1月5日現在で96人。 |  |                  |   |        |          |                |                  |                  |    |    |
| 事業の分析         | 項目  |  | 分析               | 分析の理由   |        |          |                |                  |                  |    |    |
|               | 必要性   |  | 妥当               | ・本県の自治体病院等が直面している深刻な医師不足に対処するため,実効性がある医師確保支援策を県が独自に推進する必要がある。<br>・奨学資金事業を実施する市町村もあるが,貸与者が奨学金の償還免除を受けるには,特定の病院での長期間の勤務を要するため,勤務先の選択範囲が広い県事業の方が格段に応募者を確保しやすく,確実な事業効果が期待できる。 |        |          |                |                  |                  |    |    |
|               | 有効性   |  |                  | ・成果指標の目標値(新規貸付決定数10人)を上回る11人を確保した。なお,応募者は20人であった。   |        |          |                |                  |                  |    |    |
|               | 効率性   |  |                  | ・ドクターバンク制度と医学生修学資金等貸付制度の両方を紹介するポスター及びパンフを作成し,予算の効率化を図っている。<br>・県内高校の進路指導部を訪問し,医学部進学者へのパンフレット等送付を依頼するなど,効率的な事業PRに努めている。  |        |          |                |                  |                  |    |    |
| 事業の次年度の方向性    |   | 方向性  |                  | 方向性の理由・説明   |        |          |                |                  |                  |    |    |
| 事業を進める上での課題等  |   | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等  |                  |   |        |          |                |                  |                  |    |    |
| 次年度の対応方針      |   | 課題等への対応方針  |                  |   |        |          |                |                  |                  |    |    |
| 事業の方向性等       |   | ・目標である新規貸付決定10人の達成に向け,積極的な募集活動を展開する。<br>・既貸付者のうち10人程度が平成22年3月に大学卒業の見込みのため,臨床研修マッチングに関し,県内自治体病院が研修の場として選択されるよう,適切な情報提供等の支援に努める。 |                  |   |        |          |                |                  |                  |    |    |

|     |          |             |                |
|-----|----------|-------------|----------------|
| 事業名 | 女性医師支援事業 | 担当部局<br>課室名 | 保健福祉部<br>医療整備課 |
|-----|----------|-------------|----------------|

|       |                                  |   |   |                                       |        |                |                  |                  |       |   |
|-------|----------------------------------|---|---|---------------------------------------|--------|----------------|------------------|------------------|-------|---|
| 事業の状況 | 施策番号・施策名                         | 19 安心できる地域医療の充実   |   | 区分<br>(新規・継続)                         | 新規     | 区分<br>(重点・非予算) | 重点事業             |                  |       |   |
|       | 概要                               | ・女性医師や女子医学生、大学院生等を対象とした女性医師によるキャリアカウンセリングの相談事業等を通じ、女性医師の悩みや意見を集約・分析し、有効な施策を展開する。  |   | 対象<br>(何に対して)                         | 年度     | 平成19年度<br>決算   | 平成20年度<br>決算(見込) | 平成21年度<br>決算(見込) |       |   |
|       | 手段<br>(何を<br>したのか)               | ・女性医師・女子医学生を対象としたカウンセリング(相談)及びセミナー<br>・女性医師の支援施策を検討する会議   | 活動指標<br>名(単位)<br>手段に対応<br>1事業につき<br>1指標 |                                       | 指標測定年度 | 平成 年度          | 平成 年度            | 平成 年度            | 平成 年度 |   |
|       | 目的<br>(対象をどの<br>ような状態に<br>したいのか) | ・女性医師が仕事を辞めたり、本来の進路を諦めたりしないよう、適切な相談・情報提供を行う。  | 成果指標<br>名(単位)<br>目的に対応<br>1事業につき<br>1指標 | セミナー参加人数(主催者側の委員・事務職員等を除く)<br><br>(人) | 評価対象年度 | 平成19年度         | 平成20年度           | 平成21年度           |       |   |
|       | 事業に関する<br>社会経済<br>情勢等            | ・現在、全医師数に占める女性医師の割合は未だ15%に満たないが、近年は医師国家試験合格者の1/3程度を女性医師が占めているため、女性医師の割合は年々増加する。産婦人科・小児科など地域医療の重要な分野で女性医師が担う役割は大きく、仕事と育児等とが両立できずにキャリアを断念する女性医師が増えれば、地域医療の崩壊に直結する恐れがある。 |   |                                       |        |                |                  |                  |       |   |
|       |                                  |   |   |                                       | 目標値    | -              | -                | -                | -     | - |
|       |                                  |   |   | 実績値                                   | -      | -              | -                | -                | -     |   |
|       |                                  |   |   | 単位当たり<br>事業費(千円)                      | -      | -              | -                | -                | -     |   |
|       |                                  |   |   | 目標値                                   | -      | 40             | 40               | -                | -     |   |
|       |                                  |   |   | 実績値                                   | -      | 40             | -                | -                | -     |   |

| 事業の分析 | 項目   | 分析            | 分析の理由  |
|-------|--|---------------|--|
|       | <b>必要性</b><br>・施策の目的や社会経済情勢等に沿った事業か。<br>・県の関与は妥当か。               | <b>妥当</b>     | ・地域医療の担い手としての女性医師の役割の増加に鑑み、診療業務と育児等を両立できる就労環境の改善や女性医師のキャリア形成に資する支援などは、医師確保施策としての重要性を増している。 |
|       | <b>有効性</b><br>・成果指標又は活動指標の状況から見て、事業の成果はあったか。<br>・施策の目的の実現に貢献したか。 | <b>成果があった</b> | ・2回開催したセミナーには合計で約60人(うち一般参加者は約40人)の参加があり、参加者アンケートでは、先輩医師の経験に基づく話が聴けて有益だったという意見が多かった。       |
|       | <b>効率性</b><br>・単位当たり事業費の状況等から見て、事業は効率的に行われたか。                    | <b>効率的</b>    | ・県医師会、県女医会、東北大学(学内の組織を含む)等の協力を得て、各団体の会報や情報連絡網を活用した事業PRを実施した。                               |

| 事業の方向性等         | 事業の次年度の方向性                                  | 方向性                 | 方向性の理由・説明   |
|-----------------|---|---------------------|---|
|                 | ・継続すべき事業か。事業の成果や効率性の向上のために他の事業と統合する必要等はないか。 | <b>維持</b>           | ・今年度開始した事業であり、事業内容や進め方に工夫が必要な点が多いが、民間の医療関係者による女性医師支援の取組が芽が出るまで、県のリーダーシップでモデル的な施策を推進する必要がある。 |
|                 | <b>事業を進める上での課題等</b>                         | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等 |   |
|                 | ・女性医師等のニーズを踏まえた事業企画及びPRの推進。                 | 課題等への対応方針           |   |
| <b>次年度の対応方針</b> | 課題等への対応方針                                   |                     |   |
|                 | ・今年度の事業実績や他都道府県の状況などを踏まえ、より有効な女性医師支援策を展開する。 |                     |   |

| 評価対象年度        |   | 平成20年度  | 事業分析シート  |   |   |              | 政策               | 8                | 施策             | 19 | 事業 | 4 |
|---------------|---|---|--|---|---|--------------|------------------|------------------|----------------|----|----|---|
| 事業名           |   |   | 地域医療医師登録紹介事業   |   |   |              | 担当部局・課室名         |                  | 保健福祉部<br>医療整備課 |    |    |   |
| 事業の状況         | 実施番号・施策名  | 19 安心できる地域医療の充実   |  | 区分<br>(新規・継続)   | 継続  |              | 区分<br>(重点・非予算)   |                  | 非予算的手法         |    |    |   |
|               | 概要  | ・「宮城県地域医療医師無料職業紹介所」を設置し、勤務の斡旋を希望する医師に対し自治体病院等の斡旋等を行う。                                     |  | 対象<br>(何に対して)   | 年度  | 平成19年度<br>決算 | 平成20年度<br>決算(見込) | 平成21年度<br>決算(見込) |                |    |    |   |
|               | 手段<br>(何を<br>したのか)  | ・平成18年2月に開設した「宮城県地域医療医師無料職業紹介所」を継続して運営、ホームページ等で事業紹介<br>・自治体病院から定期的に医師求人票を受付、医師からの求職票を随時受付 | 活動指標名(単位)  | 新規求職者登録数<br>(人)   | 指標測定年度  | 平成19年度       | 平成20年度           | 平成21年度           |                |    |    |   |
|               |   |   | 手段に対応<br>1事業につき<br>1指標   |   | 目標値   | 3            | 3                | 3                |                |    |    |   |
|               |   |   | 実績値  |   | 1   | 1            | -                |                  |                |    |    |   |
|               | 目的<br>(対象をどの<br>ような状態に<br>したいのか)  | ・応募者の希望に応じ、勤務先として適当な自治体病院を紹介した上、現地案内などを行って斡旋の実績を確保する。                                     | 成果指標名(単位)  | 自治体病院等への医師<br>斡旋人数<br>4月1日採用者は、<br>前年度実績に計上。<br>(人)   | 評価対象年度  | 平成19年度       | 平成20年度           | 平成21年度           |                |    |    |   |
| 指標測定年度        |   |   | 平成19年度   |   | 平成20年度  | 平成21年度       |                  |                  |                |    |    |   |
| 目標値           |   |   | 2  |   | 2   | 2            |                  |                  |                |    |    |   |
| 実績値           | 0   | 1   | -  |   |   |              |                  |                  |                |    |    |   |
| 事業に関する社会経済情勢等 | ・医師の絶対数の不足、地域や診療科による偏在が強まる中、医学部定員増や臨床研修制度の見直しなど国の対策も強化されつつあるが、本県では自治体病院の深刻な医師不足が続いており、医師確保は喫緊の重要課題となっている。<br>・平成18年12月31日現在、人口10万対医師数の全国平均は217.5人、本県は208.7人であり、地域別に見ると、仙台医療圏以外は全国平均を大きく下回る状況。県内自治体病院等から県への医師求人登録数は、平成21年1月5日現在で96人。 |   |  |   |   |              |                  |                  |                |    |    |   |
| 事業の分析         | 項目  |   | 分析   |   | 分析の理由   |              |                  |                  |                |    |    |   |
|               | 必要性   |   | 妥当   | ・本県の自治体病院等が直面している深刻な医師不足に対処するため、即効性のある医師確保支援策を県が独自に推進する必要がある。<br>・自治体病院等での勤務を希望する医師にとって、無料で職業紹介を受けられる本事業は、民間事業より有利。また、県内の多くの自治体病院等の求人情報を集めるには、県が事業主体となって実施することが適当である。 |   |              |                  |                  |                |    |    |   |
|               | 有効性   |   |  | 成果があった  | ・成果指標の目標値(斡旋人数2人)は達成できなかったが、1人を斡旋できた。<br>・平成17年度の事業開始以来の斡旋人数は2人だが、事業費に照らした費用対効果は高い。なお、本事業の間合せがあった医師をドクターバンク事業で採用した例もあり、本事業の間接的な事業効果といえる(平成20年2月に本事業の間合せ、同年10月にドクターバンク採用)。 |              |                  |                  |                |    |    |   |
|               | 効率性   |   | -  |   | -   |              |                  |                  |                |    |    |   |
| 事業の方向性等       | 事業の次年度の方向性  |   | 方向性  |   | 方向性の理由・説明   |              |                  |                  |                |    |    |   |
|               | 事業を進める上での課題等  |   | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等  |   |   |              |                  |                  |                |    |    |   |
|               | 次年度の対応方針  |   | 課題等への対応方針  |   |   |              |                  |                  |                |    |    |   |
|               | 事業の方向性等   |   | ・継続すべき事業か。事業の成果や効率性の向上のために他の事業と統合する必要等はないか。<br>・事業周知に向けたPRの推進。 |   |   |              |                  |                  |                |    |    |   |
|               | 事業の方向性等   |   | ・県に対する市町村等からの医師確保支援の要望は多く、県民の関心も強まっていることから、引き続き事業を実施する必要がある。   |   |   |              |                  |                  |                |    |    |   |
| 事業の方向性等       |   | ・宮城県ドクターバンク事業などの取組と合わせ、一層のPRを図る。  |  |   |   |              |                  |                  |                |    |    |   |

|     |          |             |                |
|-----|----------|-------------|----------------|
| 事業名 | 救急医師養成事業 | 担当部局<br>課室名 | 保健福祉部<br>医療整備課 |
|-----|----------|-------------|----------------|

|              |                                  |   |  |  |                                |                                |                            |
|--------------|----------------------------------|---|--|--|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------|
| <b>事業の状況</b> | 施策番号・施策名<br>19 安心できる地域医療の充実      | 区分<br>(新規・継続)   | 継続   | 区分<br>(重点・非予算)                           | 重点事業                           |                                |                            |
|              | 概要                               | ・県内の救急医療体制の充実を図るため、外科や内科医等の救急医療担当医師以外の医師等を対象に救急医療に必要とされる心肺蘇生法や外傷救急などの研修会を開催する。  | 対象<br>(何に対して)<br>医師                                    | 年度<br>事業費<br>(千円)                        | 平成19年度<br>決算                   | 平成20年度<br>決算(見込)               | 平成21年度<br>決算(見込)           |
|              | 手段<br>(何を<br>したのか)               | (実地研修会)<br>・救急処置教育<br>・外傷処置教育<br>(講演会等)<br>・初期救急に関する講演会等<br>・自動対外式除細動器(AED)取扱説明会等   | 活動指標<br>名(単位)<br>手段に対応<br>1事業につき<br>1指標<br>研修会等開催回数(回) | 指標測定年度<br>目標値<br>実績値<br>単位当たり<br>事業費(千円) | 平成19年度<br>35<br>35<br>@111.4   | 平成20年度<br>45<br>40<br>@114.9   | 平成21年度<br>45<br>-<br>-     |
|              | 目的<br>(対象をどの<br>ような状態に<br>したいのか) | ・外科や内科医等の救急医療担当医師以外の医師等が救急医療に関する知識・技術を身につけた。  | 成果指標<br>名(単位)<br>目的に対応<br>1事業につき<br>1指標<br>受講者数(人)     | 評価対象年度<br>指標測定年度<br>目標値<br>実績値           | 平成19年度<br>平成19年度<br>550<br>595 | 平成20年度<br>平成20年度<br>577<br>570 | 平成21年度<br>平成21年度<br>-<br>- |
|              | 事業に関する<br>社会経済<br>情勢等            | ・全国的に救急搬送患者の受け入れ先が見つからない事案が問題になる中、本県においては救急搬送時間が全国下位に位置するとともに、救急告示医療機関が少ない(人口10万人当たりの医療機関数 全国3.7, 宮城県3.0)等、救急医療体制の充実が大きな課題となっている。 |  |  |                                |                                |                            |

| 項目   | 分析     | 分析の理由   |
|--|--------|---|
| <b>必要性</b><br>・施策の目的や社会経済情勢等に沿った事業か。<br>・県の関与は妥当か。                   | 妥当     | ・本県においては、平日夜間の初期救急体制が未整備の地域が多くなって<br>いる。<br>・初期救急体制の整備を図るためには、休日当番医制や休日夜間急患セン<br>ターにおいて診療を行う医師の養成が不可欠であり、本事業はそのために重<br>要な役割を果たす事業である。<br>・本事業は、県が県医師会に委託して実施しているが、全県統一に実施す<br>る必要があることや事業実施に当たっては専門的な知識・技術が必要なこ<br>から、県の関与は妥当である。 |
| <b>有効性</b><br>・成果指標又は活動指標の状況から見て、<br>事業の成果はあったか。<br>・施策の目的の実現に貢献したか。 | 成果があった | ・成果指標、活動指標ともに目標値には達しなかったが、いずれも増加してい<br>る。   |
| <b>効率性</b><br>・単位当たり事業費の状況等から見て、事業<br>は効率的に行われたか。                    | 概ね効率的  | ・単位当たりの事業費は前年度よりも若干増加したが、これは研修で使う人形<br>が古くなったためにメンテナンスに費用を要したことによるものであり、最低限<br>必要な金額となっている。   |

|                     |  |                     |  |
|---------------------|--|---------------------|--|
| <b>事業の方向性等</b>      | <b>事業の次年度の方向性</b>  | 方向性                 | 方向性の理由・説明  |
|                     | ・継続すべき事業か。事業の成果や効率性<br>の向上のために他の事業と統合する必要等<br>はないか。                                  | 統合・廃止               | 救急を担う医師の養成は引き続き必要であるが、21年度は本事業を廃止<br>し、新たに二次救急医療機関の医師を対象とした専門領域研修を実施する。<br>ただし、初期救急を担う医師の養成も何らかの形で引き続き実施する必要が<br>ある。 |
|                     | <b>事業を進める上での課題等</b>  | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等 |  |
|                     | ・平成21年度からは、より専門的な領域の研修を実施しているところであるが、救急医療関係者からは、本事業で実施した研修のニーズ・必要性<br>に関する意見が出されている。 |                     |  |
|                     | <b>次年度の対応方針</b>  | 課題等への対応方針           |  |
| ・事業の再開に向けて検討を行っていく。 |  |                     |  |

|     |              |          |                |
|-----|--------------|----------|----------------|
| 事業名 | 救急医療体制強化推進事業 | 担当部局・課室名 | 保健福祉部<br>医療整備課 |
|-----|--------------|----------|----------------|

|       |                                  |  |   |                      |                  |                |                  |                  |
|-------|----------------------------------|--|---|----------------------|------------------|----------------|------------------|------------------|
| 事業の状況 | 施策番号・施策名                         | 19 安心できる地域医療の充実  |   | 区分<br>(新規・継続)        | 継続               | 区分<br>(重点・非予算) | 重点事業             |                  |
|       | 概要                               | 救急医療の一層の充実に向け、東北大学病院高度救命救急センターの機能・人的資源・ノウハウを最大限活用し、現時点で県として必要とする高度かつ専門的な救急医療体制の構築に取り組む。  |   | 対象<br>(何に対して)        | 年度               | 平成19年度<br>決算   | 平成20年度<br>決算(見込) | 平成21年度<br>決算(見込) |
|       | 手段<br>(何を<br>したのか)               | 救急搬送迅速化に向けた体制構築等の研究及び提言等<br>救急科専門医の養成<br>医師等を対象とした救急医療に関する研修   | 活動指標<br>名(単位)<br>手段に対応<br>1事業につき<br>1指標 | 救急科専門医養成数<br>(人)     | 指標測定年度           | 平成19年度         | 平成20年度           | 平成21年度           |
|       | 目的<br>(対象をどの<br>ような状態に<br>したいのか) | 救急に関わる医師の増加等による救急医療体制の充実   | 成果指標<br>名(単位)<br>目的に対応<br>1事業につき<br>1指標 | 公的病院に派遣した救急科専門医の数(人) | 目標値              | 0              | 2                | 2                |
|       | 事業に関する社会経済情勢等                    | 全国的に救急搬送患者の受け入れ先が見つからない事案が問題になる中、本県においては救急搬送時間が全国下位に位置するとともに、救急告示医療機関が少ない(人口10万人当たりの医療機関数 全国3.7, 宮城県3.0)等、救急医療体制の充実が大きな課題となっている。 |   |                      | 実績値              | 0              | 2                | -                |
|       |                                  |  |   |                      | 単位当たり<br>事業費(千円) | -              | @24,460.0        | -                |

| 事業の分析 | 項目  | 分析     | 分析の理由  |
|-------|---|--------|--|
|       | 必要性<br>・ 施策の目的や社会経済情勢等に沿った事業か。<br>・ 県の関与は妥当か。               | 妥当     | ・ 医師不足等の現在の状況の中では、救急医療を担う医師の増加は見込まれないため、県民の健康・生命を守る見地から、県が事業化して実施しているものである。<br>・ 事業実施に当たっては高度な専門性が必要であることから、東北大学に委託して実施している。 |
|       | 有効性<br>・ 成果指標又は活動指標の状況から見て、事業の成果はあったか。<br>・ 施策の目的の実現に貢献したか。 | 成果があった | ・ 平成20年度末において計画どおり2人の救急科専門医が養成され、平成21年4月から石巻赤十字病院に派遣された。<br>・ 研究や研修についても計画どおり実施された。  |
|       | 効率性<br>・ 単位当たり事業費の状況等から見て、事業は効率的に行われたか。                     | 効率的    | ・ 救急科専門医の養成については、複数名の指導医等による濃密かつ計画的な指導が行われており、また、研究や研修についても経費を精査の上、最小限の経費で実施されている。   |

|         |  |                     |   |
|---------|--|---------------------|---|
| 事業の方向性等 | 事業の次年度の方向性                                       | 方向性                 | 方向性の理由・説明   |
|         | ・ 継続すべき事業か。事業の成果や効率性の向上のために他の事業と統合する必要等はないか。     | 維持                  | ・ 新たに平成20年度から救急科専門医の養成に特化した形(救急科専門医養成・派遣事業)で実施している、平成22年度末にさらに2名の専門医の養成するために事業を継続する必要がある。 |
|         | 事業を進める上での課題等                                     | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等 |   |
|         | ・ 平成24年度における派遣先医療機関の調整                           |                     |   |
|         | 次年度の対応方針   | 課題等への対応方針           |   |
|         | ・ 各地域における救急医療体制の現状把握及び各病院の意向等の確認等を行いながら検討を進めていく。 |                     |   |

| 評価対象年度   | 平成20年度  | 事業分析シート   |   |  | 政策       | 8              | 施策               | 19               | 事業 | 7 |  |  |
|--|---|---|---|--|----------|----------------|------------------|------------------|----|---|--|--|
| 事業名  | 地域リハビリテーション医療体制整備推進事業   |   |   |  | 担当部局・課室名 | 保健福祉部<br>健康推進課 |                  |                  |    |   |  |  |
| 事業の状況  | 施策番号・施策名  | 19 安心できる地域医療の充実   |   | 区分<br>(新規・継続)  | 継続       |                | 区分<br>(重点・非予算)   | 重点事業             |    |   |  |  |
|  | 概要  | ・二次医療圏におけるリハビリテーション医療体制の充実を図るため、市町村等が行うリハビリテーション医療体制の整備を支援する。 |   | 対象<br>(何に対して)  | 年度       | 平成19年度<br>決算   | 平成20年度<br>決算(見込) | 平成21年度<br>決算(見込) |    |   |  |  |
|  | 手段<br>(何を<br>したのか)  | ・リハビリテーション医療体制の充実が急がれる地域に対して整備に要する経費の一部を補助                    | 活動指標名(単位)                                       | 補助事業者数(事業者)  | 市町村等     | 事業費<br>(千円)    | 4,000            | 4,000            | -  |   |  |  |
|  |   |   | 指標測定年度  |  | 平成19年度   | 平成20年度         | 平成21年度           |                  |    |   |  |  |
|  |   |   | 目標値   |  | 1        | 1              | -                |                  |    |   |  |  |
|  |   |   | 実績値   |  | 1        | 1              | -                |                  |    |   |  |  |
|  | 単当たり<br>事業費(千円)   | @4,000.0  | @4,000.0  | -  |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
| 目的<br>(対象をどのような状態にしたいのか)   | ・専門職員の確保や機器類の整備が行われて、施設基準の取得が可能となり、リハビリテーション医療が充実   | 成果指標名(単位)   | 二次医療圏における回復期リハビリテーション病棟及び疾患別リハビリテーション施設整備数(医療圏) | 評価対象年度   | 平成19年度   | 平成20年度         | 平成21年度           |                  |    |   |  |  |
| 指標測定年度   | 平成19年度  | 平成20年度  |   | 平成21年度   |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
| 目標値  | 3   | 4   |   | 4  |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
| 実績値  | 3   | 4   |   | -  |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
| 事業に関する社会経済情勢等  | ・リハビリテーション医療の中で最も患者数が多い脳血管疾患等のリハビリテーションを行う脳血管疾患等リハビリテーション料( )を届出している病院が登米及び気仙沼の各医療圏で未設置である。また、回復期リハビリテーション病棟は仙台圏域に偏在しており、栗原、登米及び気仙沼の各医療圏には未設置である。 |   |   |  |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
| 事業の分析  | 項目  | 分析  | 分析の理由   |  |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
|  | 必要性   | ・施策の目的や社会経済情勢等に沿った事業か。<br>・県の関与は妥当か。                          | 妥当  | ・県民が身近な地域においてリハビリテーションサービスの提供を受けるためには、圏域ごとにリハビリテーション医療体制を整える必要がある。本事業は、リハビリテーション医療が不足している圏域に対して重点的な支援を行うものである。<br>・国の支援制度はなく、県の支援は妥当である。 |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
|  | 有効性   | ・成果指標又は活動指標の状況から見て、事業の成果はあったか。<br>・施策の目的の実現に貢献したか。            | 成果があった  | ・本事業の対象である栗原市において、栗原市立病院にリハビリテーション専門職の増員が実現し、脳血管疾患等リハビリテーション料( )施設基準の取得を実現することができたことにより、高齢化率の高い栗原圏域のリハビリテーション医療体制が充実した。                  |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
|  | 効率性   | ・単当たり事業費の状況等から見て、事業は効率的に行われたか。                                | 効率的   | ・施設基準の取得に向けたリハビリテーション専門職の配置等が予算の範囲内で効率的に実施された。   |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
| 事業の方向性等  | 事業の次年度の方向性  | 方向性   | 方向性の理由・説明                                       |  |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
|  | ・継続すべき事業か。事業の成果や効率性の向上のために他の事業と統合する必要等はないか。   | 統合・廃止   | ・設定された事業の終期を迎え、一応の事業目的を達成したことから廃止する。            |  |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
|  | 事業を進める上での課題等  | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等   |   |  |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
|  | ・県南、県北部において、回復期リハビリテーション病棟の整備が進まず、地域的な偏在が拡大している。  |   |   |  |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
| 次年度の対応方針   | 課題等への対応方針   |   |   |  |          |                |                  |                  |    |   |  |  |
| ・地域的な偏在が著しい回復期リハビリテーション病棟について、未設置の圏域への整備を進めるため、新たに回復期リハビリテーション医療体制整備推進事業を実施する。 |   |   |   |  |          |                |                  |                  |    |   |  |  |

|     |                  |             |                |
|-----|------------------|-------------|----------------|
| 事業名 | 高齢者リハビリテーション促進事業 | 担当部局<br>課室名 | 保健福祉部<br>健康推進課 |
|-----|------------------|-------------|----------------|

|       |                                  |   |   |                         |          |                |                  |                  |
|-------|----------------------------------|---|---|-------------------------|----------|----------------|------------------|------------------|
| 事業の状況 | 実施番号・施策名                         | 19 安心できる地域医療の充実   |   | 区分<br>(新規・継続)           | 継続       | 区分<br>(重点・非予算) | 重点事業             |                  |
|       | 概要                               | 介護保険の訪問・介護予防訪問リハビリテーションを提供する事業所が少ないことから、サービスの提供を始める事業所に対して補助を行い、提供体制の整備を図る。                       |   | 対象<br>(何に対して)           | 年度       | 平成19年度<br>決算   | 平成20年度<br>決算(見込) | 平成21年度<br>決算(見込) |
|       | 手段<br>(何を<br>したのか)               | 介護保険の訪問・介護予防訪問リハビリテーションサービスの提供を開始しようとする介護保険施設に対し、事業開始に係る経費の一部を補助                                  | 活動指標<br>名(単位)<br>手段に対応<br>1事業につき<br>1指標 | 補助事業者数(事業者)             | 指標測定年度   | 平成19年度         | 平成20年度           | 平成21年度           |
|       | 目的<br>(対象をどの<br>ような状態に<br>したいのか) | 訪問リハビリテーションサービスを提供する事業者を増加させ、サービスを充実させる。  | 成果指標<br>名(単位)<br>目的に対応<br>1事業につき<br>1指標 | 訪問・介護予防リハビリテーション利用回数(回) | 目標値      | 2              | 1                | -                |
|       | 事業に関する<br>社会経済<br>情勢等            | 介護保険の訪問・介護予防訪問リハビリテーションを提供する事業所が県内には少なく、また、仙台圏に偏在している。特に地方においては移動時間がかかるなどの理由から採算をとるのが難しく、参入意欲が低い。 |   | 実績値                     | @1,126.0 | @986.0         | -                | -                |
|       |                                  |   |   |                         | 評価対象年度   | 平成19年度         | 平成20年度           | 平成21年度           |
|       |                                  |   |   | 指標測定年度                  | 平成18年度   | 平成19年度         | 平成20年度           |                  |
|       |                                  |   |   | 目標値                     | -        | -              | 13,979           |                  |
|       |                                  |   |   | 実績値                     | 14,048   | 15,744         | -                |                  |

| 項目  | 分析     | 分析の理由   |
|---|--------|---|
| 必要性<br>・施策の目的や社会経済情勢等に沿った事業か。<br>・県の関与は妥当か。               | 妥当     | ・県民が身近な地域においてリハビリテーションサービスの提供を受けるために、不足している訪問リハビリテーションに係るサービス提供量を増加させる必要がある。本事業は、事業者の参入を促進するために必要な事業である。                              |
| 有効性<br>・成果指標又は活動指標の状況から見て、事業の成果はあったか。<br>・施策の目的の実現に貢献したか。 | 成果があった | ・介護保険の訪問リハビリテーションサービスがなかった気仙沼圏域の1事業者に対して補助を行い、この事業者が訪問リハビリテーションサービス事業への参入を実現させた。<br>これにより、気仙沼圏域において必要とされる訪問リハビリテーションサービスが利用できるようになった。 |
| 効率性<br>・単位当たり事業費の状況等から見て、事業は効率的に行われたか。                    | 概ね効率的  | ・訪問リハビリテーションサービスがのぞまれる圏域に、予算の範囲内で事業者の参入が果たせ、今後とも事業の継続が見込まれることから、効率的であったと考える。  |

| 事業の次年度の方向性                                  | 方向性                 | 方向性の理由・説明  |
|---|---------------------|--|
| ・継続すべき事業か。事業の成果や効率性の向上のために他の事業と統合する必要等はないか。 | 統合・廃止               | ・3年間の事業実施により、訪問リハビリテーションサービスを提供する事業所が早期に必要なとされる圏域に事業所が整備されたことから、一応の事業目的を達成したとして廃止する。 |
| 事業を進める上での課題等                                | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等 |  |
| 次年度の対応方針                                    | 課題等への対応方針           |  |

| 評価対象年度   |   | 平成20年度   | 事業分析シート                                 |   |             |                | 政策               | 8                | 施策             | 19 | 事業 | 9 |
|--|---|--|---|---|-------------|----------------|------------------|------------------|----------------|----|----|---|
| 事業名  |   |  | 地域リハビリテーション支援体制整備事業                     |   |             |                | 担当部局・課室名         |                  | 保健福祉部<br>健康推進課 |    |    |   |
| 事業の状況  | 施策番号・施策名  | 19 安心できる地域医療の充実  |   | 区分<br>(新規・継続)   | 継続          | 区分<br>(重点・非予算) | 重点事業             |                  |                |    |    |   |
|  | 概要  | ・地域リハビリテーション広域支援センター(保健福祉事務所)を中心に、県民が身近な地域において総合的かつ一貫したリハビリテーションサービスが受けられるよう各種体制を整備する。 |   | 対象<br>(何に対して)   | 年度          | 平成19年度<br>決算   | 平成20年度<br>決算(見込) | 平成21年度<br>決算(見込) |                |    |    |   |
|  |   |  |   | 市町村等  | 事業費<br>(千円) | 5,167          | 2,707            | -                |                |    |    |   |
|  | 手段<br>(何を<br>したのか)  | ・リハビリテーション協議会の<br>設置・運営<br>・市町村事業等への技術的支援<br>・地域リハビリテーション従事者<br>に対する研修開催               | 活動指標<br>名(単位)<br>手段に対応<br>1事業につき<br>1指標 | 個別相談実施回数(回)   | 指標測定年度      | 平成19年度         | 平成20年度           | 平成21年度           |                |    |    |   |
|  |   |  |   |   | 目標値         | 280            | 280              | 280              |                |    |    |   |
|  |   |  |   |   | 実績値         | 262            | 214              | -                |                |    |    |   |
| 目的<br>(対象をどの<br>ような状態に<br>したいのか)   | ・県民が身近な地域で総合的<br>なりハビリテーションサービス<br>を受けられる体制を整備する。               | 成果指標<br>名(単位)<br>目的に対応<br>1事業につき<br>1指標  | 個別相談事例の課題解<br>決率(%)                     | 評価対象年度  | 平成19年度      | 平成20年度         | 平成21年度           |                  |                |    |    |   |
|  |   |  |   | 指標測定年度  | 平成19年度      | 平成20年度         | 平成21年度           |                  |                |    |    |   |
|  |   |  |   | 目標値   | 65          | 70             | 75               |                  |                |    |    |   |
| 事業に関する<br>社会経済<br>情勢等  | ・本県におけるリハビリテーション資源の状況は全国的に見て整備が遅れており、その充実が求められている。              |  |   |   |             |                |                  |                  |                |    |    |   |
|  | 単位の事業費(千円)  | @1.5   | @4.0                                    | -   |             |                |                  |                  |                |    |    |   |
| 事業の分析  | 項目  |  | 分析                                      | 分析の理由   |             |                |                  |                  |                |    |    |   |
|  | 必要性<br>・施策の目的や社会経済情勢等に沿った事業か。<br>・県の関与は妥当か。                     |  | 妥当                                      | ・住民に最も身近な窓口である市町村が一次的な対応を行っているが、対応困難な事例に対する専門の見地から技術的支援や市町村事業への協力・指導・助言が必要である。  |             |                |                  |                  |                |    |    |   |
|  | 有効性<br>・成果指標又は活動指標の状況から見て、事業の成果はあったか。<br>・施策の目的の実現に貢献したか。       |  | ある程度<br>成果があった                          | ・保健福祉事務所からの支援により、市町村の問題解決能力が向上し、市町村の段階で解決できている事例が増えていると思われる。指標の減少は必ずしも相談ニーズの減少を示すのではなく、解決困難な事例についてのみ保健福祉事務所に支援を求めるように市町村の体制が変化しているためとも考えられる。(指標の増加が必ずしも成果とはならない。) |             |                |                  |                  |                |    |    |   |
|  | 効率性<br>・単位当たり事業費の状況等から見て、事業は効率的に行われたか。                          |  | 概ね効率的                                   | ・限られた予算の中で多様な事業を全県下で効率的に実施している。   |             |                |                  |                  |                |    |    |   |
| 事業の方向性等  | 事業の次年度の方向性  |  | 方向性                                     | 方向性の理由・説明   |             |                |                  |                  |                |    |    |   |
|  | ・継続すべき事業か。事業の成果や効率性の向上のために他の事業と統合する必要等はないか。                     |  | 維持                                      | ・総合リハビリテーション体制整備基本構想に基づき、地域リハビリテーション広域支援センターの機能充実、市町村に対する支援策の充実を引き続き図っていく。  |             |                |                  |                  |                |    |    |   |
|  | 事業を進める上での課題等  |  | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等                     |   |             |                |                  |                  |                |    |    |   |
|  | ・特に郡部においてリハビリテーション資源が不足しており、医療及び介護保険によるリハビリテーションサービス提供体制が不備である。 |  |   |   |             |                |                  |                  |                |    |    |   |
| 次年度の対応方針   |   | 課題等への対応方針  |   |   |             |                |                  |                  |                |    |    |   |
| ・主にリハビリテーション支援センターが推進するリハビリテーション支援機能強化事業と連携しながら、リハビリテーションサービス資源の増加、また、限られた資源の有効活用を図り、継続したリハビリテーションサービスの提供につなげる各種事業を圏域の特徴に応じて進めていく。 |   |  |   |   |             |                |                  |                  |                |    |    |   |

|     |                   |             |                |
|-----|-------------------|-------------|----------------|
| 事業名 | リハビリテーション支援機能強化事業 | 担当部局<br>課室名 | 保健福祉部<br>健康推進課 |
|-----|-------------------|-------------|----------------|

|       |                                  |   |   |                       |                |              |                  |                  |        |
|-------|----------------------------------|---|---|-----------------------|----------------|--------------|------------------|------------------|--------|
| 事業の状況 | 施策番号・施策名                         | 19 安心できる地域医療の充実   | 区分<br>(新規・継続)                           | 継続                    | 区分<br>(重点・非予算) | 重点事業         |                  |                  |        |
|       | 概要                               | ・県民が身近な地域において総合的かつ一貫したリハビリテーションサービスが提供されるため、全県を担い、地域リハビリテーション推進の中核となる「県リハビリテーション支援センター」機能を確保し、地域リハビリテーション支援体制を強化する。 |   | 対象<br>(何に対して)         | 年度             | 平成19年度<br>決算 | 平成20年度<br>決算(見込) | 平成21年度<br>決算(見込) |        |
|       | 手段<br>(何を<br>したのか)               | ・各圏域で対応困難なケースに対して、より専門的な見地からの支援を行う。   | 活動指標<br>名(単位)<br>手段に対応<br>1事業につき<br>1指標 | 専門相談実施回数(回)           | 事業費<br>(千円)    | 指標測定年度       | 平成19年度           | 平成20年度           | 平成21年度 |
|       | 目的<br>(対象をどの<br>ような状態に<br>したいのか) | ・リハビリテーション支援センターと広域支援センターの連携による支援体制を構築・強化する。  | 成果指標<br>名(単位)<br>目的に対応<br>1事業につき<br>1指標 | 対応可能な課題の種類<br>(課題)    | 目標値            | 実績値          | 45               | 50               | 60     |
|       | 事業に関する<br>社会経済<br>情勢等            | ・本県におけるリハビリテーション資源の状況は全国的に見て整備が遅れており、その充実が求められている。  |   | 単位数<br>あたり<br>事業費(千円) | 評価対象年度         | 指標測定年度       | @11.1            | @10.4            | -      |
|       |                                  |   |   |                       | 目標値            | 実績値          | 2                | 3                | 4      |

| 事業の分析 | 項目  | 分析             | 分析の理由  |
|-------|---|----------------|--|
|       | 必要性<br>・施策の目的や社会経済情勢等に沿った事業か。<br>・県の関与は妥当か。               | 妥当             | ・各圏域で解決困難な事例に対してリハビリテーション支援センターがその専門性等を生かして技術的な支援・助言を行い、また、県全体のリハビリテーション資源の充実を図る事業であり、整備の遅れへの対応に必要な事業である。                |
|       | 有効性<br>・成果指標又は活動指標の状況から見て、事業の成果はあったか。<br>・施策の目的の実現に貢献したか。 | ある程度<br>成果があった | ・地域リハビリテーション広域支援センター(保健福祉事務所)等からの支援要請に対応し、主に言語聴覚士が中心となり専門的な支援を行った。また、障害者の自動車運転支援について啓発を行うとともに県内の支援体制について調査し、情報提供体制を整備した。 |
|       | 効率性<br>・単位数あたり事業費の状況等から見て、事業は効率的に行われたか。                   | 概ね効率的          | ・非予算的手法の活用を工夫するなど、できるだけ経費をかけずに事業を実施するよう努めた。  |

| 事業の方向性等  | 事業の次年度の方向性  | 方向性                 | 方向性の理由・説明                          |
|----------|---|---------------------|------------------------------------|
|          | ・継続すべき事業か。事業の成果や効率性の向上のために他の事業と統合する必要等はないか。   | 維持                  | ・引き続き専門性を生かして各圏域への技術的な支援・助言を行っていく。 |
|          | 事業を進める上での課題等  | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等 |                                    |
|          | ・地域リハビリテーション広域支援センターや各関係機関との連携体制の確立   |                     |                                    |
| 次年度の対応方針 | 課題等への対応方針   |                     |                                    |
|          | ・地域リハビリテーション支援体制整備事業と連携しながら、リハビリテーションサービス資源の増加、また、限られた資源の有効活用を図り、継続したリハビリテーションサービスの提供につなげる各種事業を全体的な視点から進めていく。 |                     |                                    |

評価対象年度 平成20年度

# 事業分析シート

政策 8 施策 19 事業 11

事業名 がん対策総合推進事業 担当部局 保健福祉部 課室名 疾病・感染症対策室

|       |                       |  |                             |                                    |        |             |              |              |
|-------|-----------------------|--|-----------------------------|------------------------------------|--------|-------------|--------------|--------------|
| 事業の状況 | 施策番号・施策名              | 19 安心できる地域医療の充実  |                             | 区分 (新規・継続)                         | 継続     | 区分 (重点・非予算) | 重点事業         |              |
|       | 概要                    | ・がん対策推進計画に基づき、がんの予防、がん検診受診率・質の向上、がん医療、がん患者・家族支援、情報提供と相談支援、がん登録の各事項を計画的かつ総合的に行うもの。  |                             | 対象 (何に対して)                         | 年度     | 平成19年度決算    | 平成20年度決算(見込) | 平成21年度決算(見込) |
|       | 手段 (何をしたのか)           | ・がん診療連携拠点病院機能強化事業(専門研修、相談支援等)<br>・がん患者・家族サポート事業(推進会議、がん相談機能促進、相談員研修)<br>・がん予防講演会及びパネル展<br>・がん登録の推進   | 活動指標名(単位)<br>手段に対応1事業につき1指標 | 相談支援センターの相談延べ件数(件)                 | 指標測定年度 | 平成 年度       | 平成 年度        | 平成 年度        |
|       | 目的 (対象をどのような状態にしたいのか) | ・がん医療の均てん化が図られ、県民が質の高いがん医療を受けられる。  | 成果指標名(単位)<br>目的に対応1事業につき1指標 | 放射線療法及び外来化学療法が実施できるがん診療連携拠点病院数(箇所) | 評価対象年度 | 平成19年度      | 平成20年度       | 平成21年度       |
|       | 事業に関する社会経済情勢等         | 平成19年4月 がん対策基本法の施行<br>平成19年6月 国が、がん対策推進基本計画を閣議決定<br>平成20年3月 県の「がん対策推進計画」を策定<br>平成19年 宮城県のがん死亡数 6,137人と昨年に比し127人増加。(全体の死亡の3割で第1位)<br>平成16年 宮城県がん罹患数 12,805人と昨年に比し29人増加。 |                             |                                    |        |             |              |              |
|       |                       |  |                             |                                    | 目標値    | 実績値         | 目標値          | 実績値          |

| 事業の分析 | 項目   | 分析            | 分析の理由   |
|-------|--|---------------|---|
|       | <b>必要性</b><br>・施策の目的や社会経済情勢等に沿った事業か。<br>・県の関与は妥当か。               | <b>妥当</b>     | ・がん対策基本法において、地方公共団体の責務として「国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、実施すること。」とされている。<br>・がんは、死亡原因の第1位(3割)であること、また罹患数の増加等、県民にとっても重大な健康問題となっている。  |
|       | <b>有効性</b><br>・成果指標又は活動指標の状況から見て、事業の成果はあったか。<br>・施策の目的の実現に貢献したか。 | <b>成果があった</b> | ・がん患者・家族相談支援体制については、がん診療連携拠点病院の空白地域である栗原及び気仙沼医療圏に相談窓口の設置を行った他、相談員の質の向上を図るため研修会を行った。<br>・がん対策は予防、がん検診、がん医療、相談支援・情報提供の充実、がん登録の推進等幅広く、一つの指標で成果を評価することは難しいが、がん相談支援体制の充実(相談員研修、拠点病院空白地域への相談支援機能の充実)やがん患者会活動の支援等により、がん患者・家族のQOL(生活の質)の向上に寄与していると思われる。 |
|       | <b>効率性</b><br>・単位当たり事業費の状況等から見て、事業は効率的に行われたか。                    | <b>概ね効率的</b>  | ・がん診療連携拠点病院や栗原及び気仙沼医療圏における相談窓口については、更に県民に窓口の周知を図っていきたい。(なお、がん対策は多岐にわたることから、事業全体の活動指標を1つあげることは難しい面がある。)  |

| 事業の方向性等   | 事業の次年度の方向性  | 方向性                 | 方向性の理由・説明  |
|---|---|---------------------|--|
|   | ・継続すべき事業か。事業の成果や効率性の向上のために他の事業と統合する必要等はないか。   | <b>拡充</b>           | ・がん対策推進計画に基づく各事業は始まったところであり、今後更に広くがん対策を進めていく必要がある。 |
|   | <b>事業を進める上での課題等</b>   | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等 |  |
|   | ・計画の目標である「がんにより死亡する人の減少」のためには、がん予防及びがん検診受診率向上のための事業展開が必要となる。<br>・がん医療の均てん化を促進するためには、がん診療連携拠点病院の機能強化とあわせ、空白地域のがん診療機能充実促進や拠点病院との診療体制の構築が求められる。<br>・がん患者等の支援体制のさらなる充実が求められている。 |                     |  |
| <b>次年度の対応方針</b>   | 課題等への対応方針   |                     |  |
| ・がんにより死亡する人を減少していくための一つとして、がん検診受診率向上のための施策を更に推進していく。<br>・がん医療の均てん化を更に図っていくため、がん診療連携拠点病院を中心としたがん診療ネットワークの構築を進めていく。<br>・がん患者等の支援については、サロン、講演会及び相談等の活動を支援する他、相談員等の研修を行い質の向上を図っていく。 |   |                     |  |

|     |              |             |                    |
|-----|--------------|-------------|--------------------|
| 事業名 | 在宅緩和ケア対策推進事業 | 担当部局<br>課室名 | 保健福祉部<br>疾病・感染症対策室 |
|-----|--------------|-------------|--------------------|

|       |                                  |   |   |                          |          |                |                  |                  |  |
|-------|----------------------------------|---|---|--------------------------|----------|----------------|------------------|------------------|--|
| 事業の状況 | 実施番号・施策名                         | 19 安心できる地域医療の充実   |   | 区分<br>(新規・継続)            | 継続       | 区分<br>(重点・非予算) | 重点事業             |                  |  |
|       | 概要                               | 在宅で身体的ケアや精神的ケアの提供を希望するがん患者等に対し、在宅療養上の適切な支援体制を整備する。  |   | 対象<br>(何に対して)            | 年度       | 平成19年度<br>決算   | 平成20年度<br>決算(見込) | 平成21年度<br>決算(見込) |  |
|       | 手段<br>(何を<br>したのか)               | 在宅緩和ケア支援センターの設置・運営<br>緩和ケアに関する従事者研修会<br>在宅緩和ケア推進連絡会議の開催   | 活動指標<br>名(単位)<br>手段に対応<br>1事業につき<br>1指標 | 緩和ケアに関する従事者<br>研修受講者数(人) | 指標測定年度   | 平成 年度          | 平成 年度            | 平成 年度            |  |
|       | 目的<br>(対象をどの<br>ような状態に<br>したいのか) | 在宅等において緩和ケアや看取りのサービスを希望する患者が、必要な医療やケアを受けることにより、安心して在宅療養ができる   | 成果指標<br>名(単位)<br>目的に対応<br>1事業につき<br>1指標 | 40-64歳のがん患者の介護保険認定件数(件)  | 評価対象年度   | 平成19年度         | 平成20年度           | 平成21年度           |  |
|       | 事業に関する社会経済情勢等                    | 平成19年に実施された「終末期医療に関する意識調査」では、前回(平成14年)より自宅での療養を希望している人が増え、63.6%となっている。しかし、在宅療養が困難な理由として、「家族に介護負担がかかる」、「症状が急変したときの対応に不安がある」等があげられている。<br>「宮城県がん対策推進計画」においても、切れ目のない緩和ケアの実施、在宅医療の推進に取り組むこととしている。 |   |                          |          |                |                  |                  |  |
|       |                                  |   |   |                          | 目標値      | 3,047          | 5,849            | -                |  |
|       |                                  |   |   | 実績値                      | 1,088    | 1,007          | -                |                  |  |
|       |                                  |   |   | 単位当たり<br>事業費(千円)         | @2,800.6 | @5,808.3       | -                |                  |  |
|       |                                  |   |   | 目標値                      | -        | 240            | 270              |                  |  |
|       |                                  |   |   | 実績値                      | 226      | -              | -                |                  |  |

| 事業の分析 | 項目  | 分析             | 分析の理由  |
|-------|---|----------------|--|
|       | 必要性<br>・施策の目的や社会経済情勢等に沿った事業か。<br>・県の関与は妥当か。               | 妥当             | ・がん患者は年々増加していること、また医療制度改革等により入院期間が短縮化していること、国の施策の方向性としても在宅医療を推進している。<br>・一部の地域を除き、在宅での緩和ケアの提供や看取り等のサービスを希望するがん患者の療養支援体制は不十分であることから、県が人材育成、ネットワーク構築の支援等、体制整備を支援していく必要がある。 |
|       | 有効性<br>・成果指標又は活動指標の状況から見て、事業の成果はあったか。<br>・施策の目的の実現に貢献したか。 | ある程度<br>成果があった | ・在宅での緩和ケアの提供や看取りのサービスを希望するがん患者等の療養支援体制の充実を図るため、相談体制の整備、従事者の研修、支援体制検討の場の設定(連絡会議)等ある程度の成果はあった。なお、成果指標としている40-64歳のがん患者の介護保険認定件数(件)については、平成20年4月から平成21年2月までの件数は、211件である。     |
|       | 効率性<br>・単位当たり事業費の状況等から見て、事業は効率的に行われたか。                    | 概ね効率的          | ・平成20年度は、在宅緩和ケア支援センターもフル稼働しているので当事業費の増額となっていることから、単位あたりの事業費でみると高くなっている。しかし、専門研修実施団体の広がりや連絡会議の開催状況を見ると事業や施策の目的に、概ね効率的と思われる。   |

|         |  |                     |  |
|---------|--|---------------------|--|
| 事業の方向性等 | 事業の次年度の方向性   | 方向性                 | 方向性の理由・説明  |
|         | 継続すべき事業か。事業の成果や効率性の向上のために他の事業と統合する必要等はないか。   | 維持                  | ・在宅緩和ケアはこれからニーズが高まっていく分野と思われる。県内のケア提供体制についても、まだ十分とはいえないことから、当分継続する必要がある。 |
|         | 事業を進める上での課題等   | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等 |  |
|         | 次年度の対応方針   | 課題等への対応方針           |  |
|         | ・在宅緩和ケア支援センターの機能(相談、情報収集・提供、普及啓発、地域連携支援等)について周知が不十分なことから、患者・家族等に対する周知を更に図っていくことが必要。<br>・県内の地域により療養支援体制にはばつきがあることから、今後研修や連絡会議での検討を通じ体制の整備を図っていくことが必要。<br>・地域住民向けの在宅緩和ケアの普及啓発活動を行っていく。 |                     |  |
|         | ・在宅緩和ケア支援センターの機能(相談、情報収集・提供、地域連携支援等)について、広報誌等やパンフレットの活用等により周知を図っていく。<br>・在宅緩和ケア支援体制については、地域ごとの連絡会議と既存のネットワークの連携や従事者研修等により充実を図っていく。<br>・在宅緩和ケアの普及啓発活動も併せて実施。                          |                     |  |

|     |           |             |                |
|-----|-----------|-------------|----------------|
| 事業名 | 認定看護師養成事業 | 担当部局<br>課室名 | 保健福祉部<br>医療整備課 |
|-----|-----------|-------------|----------------|

|       |                                  |  |   |               |                  |                |                  |                  |  |
|-------|----------------------------------|--|---|---------------|------------------|----------------|------------------|------------------|--|
| 事業の状況 | 施策番号・施策名                         | 19 安心できる地域医療の充実  |   | 区分<br>(新規・継続) | 継続               | 区分<br>(重点・非予算) | 重点事業             |                  |  |
|       | 概要                               | ・医療の高度化・専門化が進行する中で、安全で質の高い看護サービスを提供するために、特定分野の知識・技術がより訓練された認定看護師の養成の促進を図る。   |   | 対象<br>(何に対して) | 年度               | 平成19年度<br>決算   | 平成20年度<br>決算(見込) | 平成21年度<br>決算(見込) |  |
|       | 手段<br>(何を<br>したのか)               | ・特定の分野に特化した知識・技術を習得するための認定看護師養成課程を設置し、皮膚・排泄ケア認定看護師30人の養成を行った。  | 活動指標<br>名(単位)<br>手段に対応<br>1事業につき<br>1指標 | ・養成課程数(課程)    | 指標測定年度           | 平成19年度         | 平成20年度           | 平成21年度           |  |
|       | 目的<br>(対象をどの<br>ような状態に<br>したいのか) | ・病院に勤務している看護師がより専門的な知識や技術を習得するために、皮膚・排泄ケア認定看護師養成課程を受講する。   | 成果指標<br>名(単位)<br>目的に対応<br>1事業につき<br>1指標 | ・養成課程受講者数(人)  | 目標値              | -              | 1                | 1                |  |
|       | 事業に関する<br>社会経済<br>情勢等            | ・医療の高度化・専門化、在院日数の短縮により、県民は安全で質の高い医療や看護サービスを求めている。認定看護師については、高齢者の増加や褥瘡(じよくそう)の発生予防のため皮膚のケアが重要である。また、直腸癌の増加に伴って人工肛門や人工膀胱を造設する患者が増加しており、ニーズとして高い。また、平成18年4月の診療報酬改定により認定看護師の配置加算があり、病院からの需要も高くなっている。 |   | 実績値           | -                | 1              | -                |                  |  |
|       |                                  |  |   |               | 単位当たり<br>事業費(千円) |                | @12,364.0        | -                |  |

| 事業の分析 | 項目  | 分析     | 分析の理由  |
|-------|---|--------|--|
|       | 必要性<br>・施策の目的や社会経済情勢等に沿った事業か。<br>・県の関与は妥当か。               | 妥当     | ・高齢者の増加やがん患者の増加に伴って、褥瘡(じよくそう)の発生や人工肛門造設に伴う皮膚のトラブルが多くなっており、社会の情勢等に沿った事業である。<br>・医療制度改革等において、安全で質の高い医療の提供が求められており、県が関与するべき事業である。 |
|       | 有効性<br>・成果指標又は活動指標の状況から見て、事業の成果はあったか。<br>・施策の目的の実現に貢献したか。 | 成果があった | ・皮膚・排泄ケア認定看護師養成課程を設置し、30人の受講生に対して7か月間の養成を行い、30人全員が修了した。  |
|       | 効率性<br>・単位当たり事業費の状況等から見て、事業は効率的に行われたか。                    | 効率的    | ・平成20年度30人の養成を行ったが、事務費等を削減し大幅に一般財源を削減している。   |

|         |   |                     |                                  |
|---------|---|---------------------|----------------------------------|
| 事業の方向性等 | 事業の次年度の方向性  | 方向性                 | 方向性の理由・説明                        |
|         | ・継続すべき事業か。事業の成果や効率性の向上のために他の事業と統合する必要等はないか。         | 維持                  | 平成22年度も継続し、皮膚・排泄ケア認定看護師30人を養成する。 |
|         | 事業を進める上での課題等  | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等 |                                  |
|         | ・受講者数を担保するためには、当該事業のPRを県内外の病院管理者及び看護師等に積極的に行う必要がある。 |                     |                                  |
|         | 次年度の対応方針  | 課題等への対応方針           |                                  |
|         | ・県内外の病院へ募集要項の早期送付及びHP等で広く周知を行う。                     |                     |                                  |

|     |            |             |              |
|-----|------------|-------------|--------------|
| 事業名 | 薬局機能向上推進事業 | 担当部局<br>課室名 | 保健福祉部<br>薬務課 |
|-----|------------|-------------|--------------|

|               |   |   |   |               |                |              |                  |                  |    |    |    |
|---------------|---|---|---|---------------|----------------|--------------|------------------|------------------|----|----|----|
| 事業の状況         | 施策番号・施策名  | 19 安心できる地域医療の充実   | 区分<br>(新規・継続)                           | 新規            | 区分<br>(重点・非予算) | 重点事業         |                  |                  |    |    |    |
|               | 概要  | 薬局が「医療提供施設」に位置づけられたことから、病院、診療所と連携を強化しつつ良質の医療を提供するため、薬局薬剤師の資質及び専門性の向上を含めた薬局機能の向上を推進する。 |   | 対象<br>(何に対して) | 年度             | 平成19年度<br>決算 | 平成20年度<br>決算(見込) | 平成21年度<br>決算(見込) |    |    |    |
|               | 手段<br>(何を<br>したのか)  | ・ 実態を把握するためのアンケート調査<br>・ アンケート結果を薬局へフィードバック   | 活動指標<br>名(単位)<br>手段に対応<br>1事業につき<br>1指標 | -             | 指標測定年度         | 平成           | 年度               | 平成               | 年度 | 平成 | 年度 |
|               |   |   |   |               | 目標値            | -            | -                | -                | -  | -  |    |
|               |   |   |   |               | 実績値            | -            | -                | -                | -  |    |    |
|               | 目的<br>(対象をどの<br>ような状態に<br>したいのか)  | 薬局薬剤師の資質及び専門性の向上を含めた薬局機能の向上を図る。   | 成果指標<br>名(単位)<br>目的に対応<br>1事業につき<br>1指標 | -             | 評価対象年度         | 平成19年度       | 平成20年度           | 平成21年度           |    |    |    |
| 指標測定年度        |   |   |   |               | 平成             | 年度           | 平成               | 年度               | 平成 | 年度 |    |
| 目標値           |   |   |   |               | -              | -            | -                | -                |    |    |    |
| 事業に関する社会経済情勢等 | 質の高い医療の提供が求められている現状をふまえ、平成18年6月に関係法令の整備が行われ、医療法の改正に伴い薬局が「医療提供施設」に位置づけられた。また、薬事法が改正され薬局機能情報の公開や安全管理体制の整備等が追加されるなど、薬局機能の向上が求められている。 |   |   |               |                |              |                  |                  |    |    |    |

| 事業の分析 | 項目   | 分析                     | 分析の理由   |
|-------|--|------------------------|---|
|       | <b>必要性</b><br>・ 施策の目的や社会経済情勢等に沿った事業か。<br>・ 県の関与は妥当か。               | <b>妥当</b>              | 高齢化が進む中、薬局においても質の高い医療の提供が求められており、薬局薬剤師を含む薬局の資質を向上させるための施策は、社会情勢に沿った事業である。   |
|       | <b>有効性</b><br>・ 成果指標又は活動指標の状況から見て、事業の成果はあったか。<br>・ 施策の目的の実現に貢献したか。 | <b>ある程度<br/>成果があった</b> | 薬局の資質向上の度合いを数値化することは難しいが、各薬局に対するアンケート調査の結果、明らかになった問題点を、各薬局にフィードバックすることにより、各薬局の意識改革の一助になったと考えられることから、ある程度の成果はあったと判断する。 |
|       | <b>効率性</b><br>・ 単位当たり事業費の状況等から見て、事業は効率的に行われたか。                     | <b>概ね効率的</b>           | アンケート調査表の発送・回収及び解析を、職員が直接行うとともに、その結果を各薬局にフィードバックする場合は、他の説明会の場を利用するなど、経費の節減に努めたことから、概ね効率的に行われたと判断する。                   |

| 事業の方向性等   | 事業の次年度の方向性                                   | 方向性                 | 方向性の理由・説明   |
|---|--|---------------------|---|
|   | ・ 継続すべき事業か。事業の成果や効率性の向上のために他の事業と統合する必要等はないか。 | <b>維持</b>           | 今後も、薬局における質の高い医療の提供のニーズが継続して見込まれることから、次年度も引き続き事業を継続する必要がある。 |
|   | <b>事業を進める上での課題等</b>                          | 事業が直面する課題や改善が必要な事項等 |   |
|   | 質の高い医療の提供が可能な「かかりつけ薬局」の定着を図る必要がある。           |                     |   |
| <b>次年度の対応方針</b>   | 課題等への対応方針                                    |                     |   |
| 検討会を設置し、かかりつけ薬局の定義付けを行うとともに、かかりつけ薬局定着のための研究会等を開催し、薬局機能の向上を図る。 |  |                     |   |